

六、本時のねらい

「学年ミニ体育祭をするなら何の種目がよいか」という話題でグループ・ディスカッションを行うことを通して、目的に沿って、展開に応じて自分の考えや他者の考えを結び付けて話し合い、自分やグループの考えをまとめ、どのように実生活に生かすことができるかを考えることができる。

七、本時の展開(五/五)

教師の働きかけ

・前回までのグループ・ディスカッションで自分が話し合いに参加したり、仲間の話し合いを観察したりしましたね。今日のグループ・ディスカッションではどのような話し合いができればよいでしょうか。

これからグループ・ディスカッションをするに当たって、見直してきた「よい話し合い」するための三か条を確認しましょう。また、あなたが意識したい話し合い方も「言葉の技」を基に確認しましょう。

グループ・ディスカッションが始められるように机を移動させて座って下さい。また、司会是谁かを確認しましょう。

・それでは、話し合いの結果を報告しましょう。どのグループから報告しても構いません。後に続くグループは前のグループの報告に結び付けて話せそうだと思うタイミングで発表して下さい。

・「言葉の技」をもとにどのような話し合いをして、自分の考えがどのように変わったかを考えましょう。

学習活動

◇ 本時の見通しをもつ。

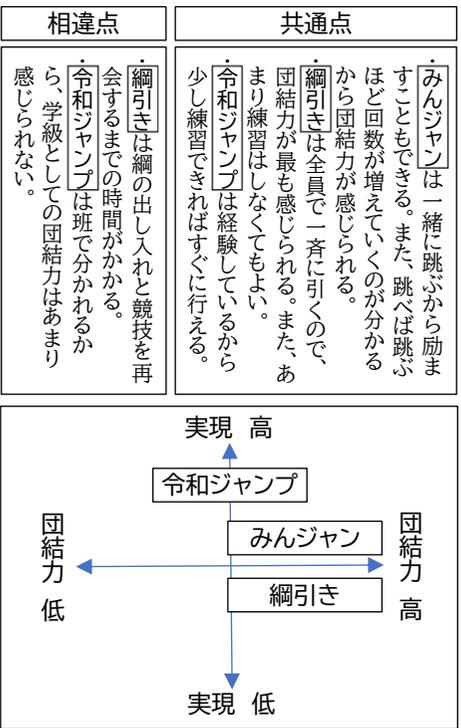
今日のグループ・ディスカッションでは、自分の考えや他の人の考えを比較しながら聞いて、話す人が何を言いたいのか確かめたり、質問したりして、話し合いのゴールを意識して意見を言っていきたいな。そして、自分の考えが広がったり深まったりするとうい。

◇ 本時の学習課題を確認する。

全員が納得する結論に辿り着くためには、どのような話し合いになればよいだろう。

前時までのグループ・ディスカッションを行うことを通して見直したよい話し合いするための三か条と、本時自分が「言葉の技」を使ってどのような話し合いをして、どのように自分の考えが変わったかを振り返ることを確認する。

◇ グループ・ディスカッションを行う。



◇ 話し合いの結果を報告する。

報告の手順 ①グループで出した意見 ②それぞれの意見をまとめていくために出てきた視点 ③④を踏まえてグループとして出した結論

◇ 「言葉の技」を使ってどのような話し合いをして、どのように自分の考えが変わったかを考える。

「言葉の技」の何を「どのよう場面面で」「どのよう言葉で」「どのよう効果をもたらして」用いたか。

前の時間の反省点から「根拠」から共通点や相違点を探し、曖昧な点を質問したり、確かめたりしようと思っていた。自分は綱引きがよいと思っていたけれど、みんジャンと綱引きでどちらが実現できるか悩んだとき、「みんジャンの方が準備や片付けに時間がかかるのではないかな」と確かめてみた。そのことにより、自分も納得し、みんなの意見もまとめることができた。

◇ 「全員が納得できる話し合い方」を目指して考えてほしい。

朝・夕学活は時間が短いけれど、話し合いたいことはたくさんある。この単元で身に付けた力を生かせば、短時間でも全員が納得できて内容の濃い話し合いができる。そうすれば、班や学級がよりよくなると思う。学級だけでなく他の教科や委員会するときにも使えそうだ。

実践との関連(◆)及び留意点(◇)

◆実践内容(ウ)③

過去に行った話し合いの経験から生徒が決めた「よい話し合い」するための三か条と「言葉の技」を振り返りの項目とする。指導と評価の一体化をねらう。

◆実践内容(一)②

第三・四時で参加者同士、観察者同士、参加者と観察者合同で振り返りを行うことで協働的で建設的な話し合いとはどのようなものかを考えたものをここで言語化する。

◆実践内容(一)③

前時に「三角ロジック」を使い、次時の話題に対する自分の考え・根拠・事実をまとめ、予想される質問とその答えも考える。

◆実践内容(ウ)②

表面的な振り返りに留まらず、話題や展開を捉えた話し合いをするための具体的な改善策を見つけることができるように、振り返りシートには文例を示し、着目する視点を焦点化する。

《評価規準》

【思 判 表 A(一)オ】

全員が納得のいく結論に辿りつくために、自分の発言と他者の発言を結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして、自分やグループの考えをまとめている。(発言内容・座標軸)